

輸出事業計画 ※申請者名：**全国農業協同組合連合会山形県本部、品目：啓翁桜****1. 輸出における現状と課題****【現状】**

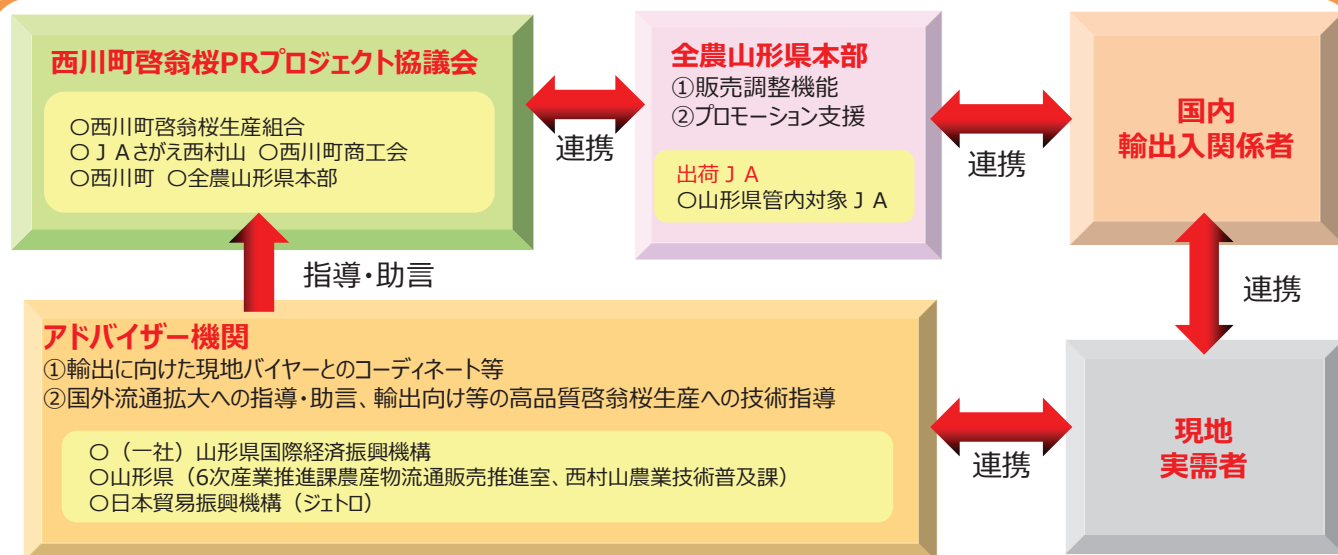
- ・山形県の啓翁桜の生産は、昭和40年代に全国にさがけて促成栽培を始め、日本一の出荷量を誇る。
- ・一足早い春を運ぶ「冬のさくら」として広く知られ、国内では迎春花として正月の飾りや卒業式等の飾りに多く使用され高い需要を誇っている。また、近年では海外でも需要が高まってきており、特に旧正月向けとして香港、マカオを中心としたアジア諸国との取引において増加傾向となっている。
- ・秋の訪れが早い山形県ならではの気候的特色を活かした、高い技術で生産される高品質の「啓翁桜」を幅広くPRすること、および国内需要が低迷する1月下旬～2月下旬までの輸出展開を強化することを目標と掲げ、輸出拡大に取り組んでいる。

【課題】

- ・品質の統一 ・高齢化、後継者不足等による耕作放棄地の拡大 ・到着後、開花しないケースの原因究明
- ・複数 J A によって混在する出荷箱規格の見直し ・安定的な輸出数量の維持

2. 輸出事業計画の取組内容

- ・圃場団地化による同一圃場からの出荷による品質の均一化。
- ・生産者のモチベーションアップを図るための、生産者帯同の現地プロモーション活動。
- ・輸出先において開花しないケースについて、県の技術普及課と連携した、試験場での実証による原因の究明。
- ・同一圃場からの出荷による出荷箱規格の混在の防止。特注サイズ出荷箱の作成。
- ・行政と一体となったプロモーション展開を行い、県内各地での産地整備を進め、町おこしも兼ねた行政事業との相乗効果をはかり、生産面積及び生産量の拡大への取組み。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制**4. 輸出目標額**

切り花（啓翁桜）	現状（令和2年度）	目標（令和8年度）
輸出額	248万円	550万円
輸出量	9,080本	22,000本
輸出先国	インドネシア・ロシア・香港・ドバイ・マカオ・シンガポール・中国	香港・シンガポール・マカオ・ロシア・インドネシア・中国・ドバイ・サウジアラビア・マレーシア・フィリピン・タイ・ベトナム・ドイツ・オランダ・アメリカ